

高松市生涯学習センター 生涯学習推進事業（コミュニティセンターとの連携事業）

「高松藩が造った三つの世界」を開催しました。

平成29年2月15日（水）、公益財団法人松平公益会理事長の佐伯 勉さんを講師にお迎えし、「高松藩が造った三つの世界」を開催しました。



「高松藩が造った三つの世界」—南北に一直列に並ぶ“この世とあの世と幻の世”という謎めいた講座タイトルから、どのようなお話が聴けるのだろうか、郷土の歴史に関心の深い受講生の皆さんは興味深々の様子で、講座が始まりました。

佐伯講師のお話によると、高松藩が造った三つの世界のうち、「この世」とは、高松藩の領地、町や村であり、「あの世」とは、死後の世界を仮想空間表現した法然寺であり、最後の「幻の世」は夢幻の世界を再現した栗林公園だそうです。

まずは「この世」…初代藩主・頼重公は、文武両道で性格は温和、気配り心配りのできる若者で、藩主就任後は、治水と利水、寺社の再興と支援、城の修復と天守閣の改修などのほか、理兵衛焼・保多織などの伝統工芸や伝統泳法・水任流の誕生など、数多い実績を残しました。

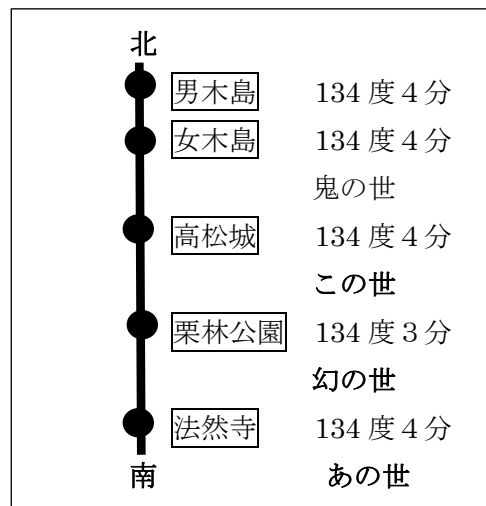


次に「あの世」…初代藩主・頼重公が建立した法然寺には、宗教とは？信仰とは？浄土宗とは？極楽浄土とは？など目に見えない世界を、ため池や仏像や山や自然を巧みに使ってわかりやすく表現した空間があります。講座では、“あの世の世界”“死後の世界”“極楽の世界”について、法然寺の地形図をもとに、分かりやすく説明がありました。

そして「幻の世」…栗林公園は、南北に三筋に走る「草」「行」「真」の三つのゾーンで構成されており、誰もが一度は見たいと願う世界、仙人の住む世界、神仙の世界を空間表現したものではないかと言われています。

講座の最後は、お話のあった『三つの世界：「この世」と「あの世」と「幻の世」は、いずれも「東経134度04分」で南北に一直列に連なり「高松歴史街道基軸」を形成している。』という神秘的な内容で締めくくられました。

今回の講座では、高松藩が造った三つの世界について、大変興味深いお話を聞くことができたほか、「高松城」「栗林公園」「法然寺」など郷土の名所・旧跡に秘められた素晴らしさを再発見することができました。ぜひ、これを機会に現地を訪れ、その魅力を体感してみたいものです。



「高松歴史街道基軸」はある？

